



平成 29 年 2 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社 **MORESCO**
代表者名 代表取締役社長 赤田 民生
(コード番号 5018 東証第一部)
問合せ先 取締役 常務執行役員
経営企画部長 宮川 弘和
T E L 0 7 8 (3 0 3) 9 0 5 8

MORESCO 第 7 次中期経営計画(2015～2017 年度)修正について

当社は、平成 29 年 2 月 21 日開催の取締役会において、平成 28 年 2 月 23 日に公表いたしました MORESCO 第 7 次中期経営計画(2015 年度～2017 年度)につきまして、昨今の業績動向を踏まえ見直すこととし、下記のとおり修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

1. 売上高、利益計画(連結)

(修正後)

(単位：百万円)

	2015 年度実績	2016 年度見込	2017 年度計画
売 上 高	26,266	26,700	28,700
営 業 利 益	2,125	2,350	2,600
経 常 利 益	2,378	2,650	2,900
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,526	1,650	1,850
経 常 利 益 率	9.1%	9.9%	10.1%

注) 2016 年度見込は当中期経営計画修正発表日現在の業績予想値です。

(修正前)

(単位：百万円)

	2015 年度実績	2016 年度計画	2017 年度計画
売 上 高	26,266	27,300	30,300
営 業 利 益	2,125	2,100	2,600
経 常 利 益	2,378	2,500	2,900
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,526	1,600	1,800
経 常 利 益 率	9.1%	9.2%	9.6%

2. 中期経営計画修正の理由

当社は、第 7 次中期経営計画に基づき、ホットメルト事業における増産体制の整備、特殊潤滑油製品の海外展開強化、情報関連製品や航空機関連製品など中長期的成長が期

待できる分野の強化を図ってまいりました。

そうした中で、我が国経済は、設備投資、外需の持ち直しにより景気が緩やかに回復しつつあり、海外経済についても、中国、東南アジア等の新興国を中心に安定的な経済成長が続いております。一方で、当社の主たる顧客である国内自動車生産は依然伸び悩んでおり、ダイカスト製品等については大きな伸びは期待できないと思われまます。また、円高による売上高縮小や原油価格の予想以上の下落により、当社各種製品の販売価格が大幅に下落したことから、今般、中期経営計画の業績目標を修正することといたしました。

3. 修正中期経営計画の重点事業戦略（各部門概要）

①特殊潤滑油部門

主たる需要分野である自動車産業においては、中国や東南アジアを中心とした新興国では堅調な生産台数増加が見込まれていますが、まだ世界的にシェアの低い切削油剤や熱間鍛造潤滑油剤について、国内外の開発ノウハウを共有化するとともに、当社の海外拠点、販売網を生かしたグローバル展開を推進します。

一方、国内では、少量塗布で優れた性能を発揮するダイカスト用油剤、白色系の熱間鍛造潤滑油剤等の環境負荷の軽減に貢献できる潤滑油剤の開発や、航空機部品などの難削材の加工を可能にする切削油剤の開発、新たな販売ルートの開拓等によりシェア拡大に取り組みます。

②合成潤滑油部門

高温用合成潤滑油は、主として自動車電装部品向けの高温度軸受用グリースの基油として使用されており、高いシェアを有するオンリーワン製品として安定的な需要が見込まれますが、国内自動車生産台数の伸び悩みにより、新たな製品開発、用途の拡大、グローバル展開により、オリジナリティーの高い製品を世界に供給します。

ハードディスク表面潤滑油剤は、サーバ向けメディア市場での底堅い需要はあるものの、ハードディスクドライブ以外の記憶媒体の開発進展にともないシェアを奪われつつあることから、薄膜化や耐久性の要求に対応できる新潤滑油剤を市場投入し売上高維持に努めます。また次世代メディア用潤滑油剤の先行開発を積極的に進め、継続的な新機種での認定を目指します。

③素材部門

主力製品である流動パラフィン、輸入品との競合等により販売競争が激しくなる中、新製品の投入によりリチウムイオン電池向け需要の取り込みをはかるとともに、医療品、化粧品などの成長分野でも提案営業を強化し、用途の拡大に努めます。また需要の堅調な天然スルホネートについては、海外向け輸出を強化し、安定した売上高、収益を確保いたします。

製造面では、千葉工場生産革新プロジェクトにもとづく設備投資を実施し、工程の見直し等により、コスト競争力の向上と品質の安定を図ります。

④ホットメルト接着剤部門

中国天津市に設立したホットメルト製造販売会社においては、衛生材用途だけでなくその他分野への販売を拡大し、稼働率アップを図るとともに、東南アジアでは、人口増加に

よる子供用紙おむつの需要や周辺国のホットメルト需要に対応し、インドネシア現地法人においても増産を図っていきます。

また、ホットメルト接着剤は溶剤を含まず環境負荷軽減に貢献できる接着剤として需要が拡大しています。近年の環境問題であるVOC（揮発性有機化合物）への対策として、需要増加が見込まれる自動車内装用を主とする反応型ホットメルト接着剤に加え、ラベル等の粘着材分野においても、高機能新製品により売上高拡大を目指します。

製造面では原料購入のグローバル化を推進し、サプライチェーンを強化することにより、原材料の安定確保とコスト競争力強化に努めます。

⑤デバイス材料部門

2017年3月に発足するデバイス材料部門においては、昨年技術提携した企業と有機薄膜太陽電池の生産・販売体制を整えるとともに、有機EL向け封止材の新製品開発と国内外での拡販、世界で唯一の高性能水分透過率測定装置（スーパーディテクト）の販売や子会社(株)モレスコテクノとの連携による当該装置を使った分析業務の受託先拡大等により、売上高増加に貢献していきます。

4. 部門別売上高の計画（連結）

（単位：百万円）

	2015年度実績	2016年度見込	2017年度計画
化学品事業	26,212	26,650	28,650
特殊潤滑油部門	11,897	12,200	13,050
合成潤滑油部門	2,800	2,900	3,000
素材部門	3,554	3,400	3,600
ホットメルト接着剤部門	6,628	6,800	7,300
デバイス材料部門	—	—	300
その他	1,334	1,350	1,400
賃貸ビル事業	54	50	50
合計	26,266	26,700	28,700

注) 2016年度見込は当中期経営計画修正発表日現在の売上高予想値です。

5. 海外戦略および新製品開発

①海外戦略

当社グループは、自動車分野で国内市場が成熟する中、引き続き、自動車関連や衛生材料分野の成長が見込まれる新興国において、特殊潤滑油、ホットメルト接着剤などの事業展開を積極的に推進してまいります。特に、中長期的には自動車関連等で需要が拡大している中国、北米を最重要市場と位置付け、マーケティング、性能、コスト面等で競合各社を凌駕すべく体制を強化してまいります。また、グローバル展開推進のための体制作りや、新製品開発力強化による競争力の向上を目指し、現地と日本の連携により現地ニーズに対応した事業展開をスピーディーに進めます。

中国ではグループ会社間のネットワークをさらに強化するとともに販売網を整備し、日系

のみならず欧米自動車メーカーや現地企業への販売を強化します。特に、まだシェアの低い切削油剤や熱間鍛造潤滑油剤の拡販活動を加速します。

北米においては、米国現地法人、メキシコ駐在員事務所が連携し、ダイカスト用油剤を中心とした市場開拓を日系企業のみならず米系企業に対しても推進し、積極的に自動車部品メーカー等の需要を取り込んでおりますが、その他の潤滑剤や素材、合成潤滑油剤の拡大にも力をいれてまいります。

東南アジアでは現地ニーズの情報収集に注力し、ニーズに対応した製品開発をタイムリーに行うことで、ローカルユーザーを含めた市場でのシェアアップに努めます。またタイ、インドネシアの生産拠点を核としてベトナム、マレーシアへの市場開拓を進めます。

インドでは、2017年に設立する現地法人を拠点に潤滑油の販売を拡大するとともに、工場建設の検討に入ります。

②新製品開発

新製品開発では、世界で唯一の高性能水分透過率測定装置を開発するとともに、有機薄膜型太陽電池の量産化に取り組む等、「環境関連分野」、「情報関連分野」、「エネルギーデバイス分野」の3分野に重点をおき、人的、技術的ネットワークを生かしながら、当社のコア技術をさらに強化し、国内外の顧客ニーズにあった製品開発に注力してまいります。また、研究開発本部の傘下に3つの新規プロジェクトを置き、中長期的に当社の柱となるような研究開発を進めてまいります。

1) 環境関連分野

自動車関連部品の製造工程で重要な役割を担う特殊潤滑油分野では、省資源、省エネルギーに貢献する高機能製品の開発を進めます。少量塗布で優れた離型性や潤滑性を発揮するダイカスト用油剤、航空機部品など難削材を加工できる切削油剤など、オリジナリティーの高い製品展開を図ります。

溶剤を含まず環境負荷軽減に寄与するホットメルト接着剤分野では、反応型ホットメルト接着剤等が国内自動車メーカーの一部車種で採用されていますが、耐熱性をさらに向上し、これまで使用されなかった内装用部位への展開を図るとともに低コスト化を実現し、グローバルな展開に結び付けてまいります。

2) 情報関連分野

ハードディスクドライブの需要は今後もクラウドサーバ用の成長が進展すると予想され、より高度な次世代記録方式に対応した高機能な表面潤滑剤を提供してまいります。ハードディスクドライブ関連分野の裾野を広げ、新しい用途での潤滑剤を総合的に開発します。

3) エネルギーデバイス分野

有機合成技術、配合技術、高分子材料の変性技術などを生かし、今後の成長が期待される有機ELパネルや、有機薄膜太陽電池などの有機デバイスの長寿命化に貢献する高バリア性封止材料の開発を加速します。既に国内外で一部採用いただいておりますが、更に性能アップに努めるとともに、デバイス材料分野で高いシェアを有する韓国、台湾、中国企業での本格的な採用に向けて注力し、新エネルギー関連分野への展開を加速します。

以上